

施工上のお願い【床暖房フローリング】

<施工前の注意>

- ①サツンの取付け完了後は床下コンクリートなど施工面が完全に乾燥状態であることを確認してから施工して下さい。
コンクリートに湿気のある場合、フローリングや下地材に悪影響を与えることがあります。
- ②根太材は厚さを揃えた平滑な乾燥剤を使用し、耐水合板を使用するとともに、雨に濡らさないように注意して下さい。
高含水率の下地材使用はフローリングに悪影響を与えます。
- ③開梱は施工直前にして下さい。この製品は厳密な含水率管理のもとに製造され、さらに防湿梱包してお届けしておりますので、施工前の長時間の放置は避けて下さい。
- ④本製品は天然木を使用している為、縦継ぎピース毎に色柄、木目が異なりますので、施工前に仮並べてして調和をとってから張り上げて下さい。
- ⑤熱源はフローリングが303mm間隔で釘留め可能なもの、かつ接着剤の併用が可能なものをお選び下さい。
- ⑥湿気の多い土地柄など高湿度環境下でのご使用は防水、防湿対策に十分考慮して下さい。また、地下室でのご使用はおやめ下さい。
- ⑦本製品は置き床工法及び直張り工法にはご使用出来ません。
- ⑧施工時には床暖房機器のメーカー様との打ち合わせをお願いします。

<施工上の注意>

- ①根太材は45mm角以上の厚さを揃えた乾燥材を使用し、303mm間隔に設置、フローリングと必ず直交するようにして下さい。小根太付きの床暖房機器をご使用の場合は小根太とフローリングとを必ず直交させて下さい。
- ②床暖房機器の下には捨て貼りとしてF☆☆☆☆相当で厚さ12mm以上の耐水合板を使用し、レンガ張りにして下さい。合板の張り上げも必ず接着剤と釘とを併用して下さい。この場合はフローリングを必ず根太上に釘打ち出来るように合板上に墨付けして下さい。
また床下からの湿気が多い場所では0.1mm以上の防湿シートを併用するなど防湿対策を施して下さい。
- ③床暖房パネルと周辺部合板との段差が生じないよう、平滑な下地を構成して下さい。下地の不揃い、緩みは床鳴りの原因になります。
- ④フローリングのセンター出しは必ず床暖房機器の根太上として、全ての木口接合部がその根太上に来るように割付をし、継ぎ手を交互にずらして下さい。
- ⑤フローリングの施工には接着剤及び釘を併用して下さい。
- ⑥接着剤は使用説明書に従って根太上は勿論、床暖房機器上も全面塗布して下さい(塗布量400~500g/m²)。接着剤がフローリング表面、**サネやその近接部**に付着した場合は直ちに布で拭き取って下さい。
木工ボンドなどの水性エマルジョン系接着剤の使用は絶対に避けて下さい。
- ⑦必ず5.5mmの下地合板を熱源と床材の間に施工いただき、接着剤とステーブル併用で施工をお願いいたします。
下地合板を挟むことで合板を挟まない時に比べ表面温度が2~3℃低くなりますが、床暖房無垢材は下地合板を挟む工法にて施工をよろしくお願い致します。
- ⑧根太へ釘止めするフロアー釘、ステーブル釘は38mm以上を必要とし、長辺雄実部分に303mm間隔で7本打って下さい。その際に付け根へ釘頭が完全に沈み込むように45度角で打って下さい。
- ⑨施工の際には、同梱されているスペーサーを必ず使用し、フローリング同士の間に隙間を設けて下さい。また、壁際は5~10mm程度空けて下さい。

<施工後の注意>

- ①張り込み後は表面保護の為、防湿養生シートを全面に敷いて下さい。
養生テープは直接フローリングに貼らないで下さい。塗装表面が剥がれる可能性がございます。
- ②水、砂などに十分配慮して養生して下さい。塗料、水などをこぼしたら速やかに取り除いて下さい。
- ③床暖房は施工後3日以上経過してからお使い下さい。

<お施主様へ使用上のお願い>

- ①床暖房使用時にはフローリングの上に絨毯などを敷かないで下さい。熱ごもりにより隙間が大きく開いたり、色やけや不具合が生じやすくなります。また、電気カーペットやこたつ、ストーブは併用しないで下さい。
- ②日常のお手入れは掃除機で清掃後、乾いたやわらかい布やモップでのからぶきで十分です。汚れは取りにくい場合は固く絞った雑巾でふき取って下さい。化学薬品を含んだクリーナーはフローリングに悪影響を与えることがあります。
- ③ワックス塗布は極力行わないで下さい。
ただし、ツヤ出しを行いたい等どうしてもワックスがけを行いたい場合は、下記事項をご留意下さい;
無垢フローリングは水気を嫌いますので水性ワックスは使わないで下さい。特にまき散らしてのワックスがけは絶対しないで下さい。
ワックスは油性を使用し、年に1~2回程度を目安になるべく薄くかけて下さい。また、ワックスがけ後は床が滑りやすくなりますので歩行には十分ご注意下さい。
- ④水などの液体をこぼした際は直ちにふき取って下さい。フローリングに不具合が生じたり、床暖房機器の故障の原因となります。
- ⑤椅子や机は移動の際にフローリングを傷つける場合がありますので、椅子や机の脚をフェルト等で保護して下さい。また、キャスター付きの椅子や家具のご使用はおやめ下さい。
- ⑥タバコの火などの焦げ痕は取れませんので、タバコを落とした際は直ちに取り除いて下さい。
- ⑦直射日光に長時間曝されますとフローリングは変色してしまいますので、カーテンやブラインド等で直射日光を遮るように心掛けて下さい。また、色のばらつきは半年ほどで目立たなくなります。

<その他の注意点>

木材特有の性質に由来する問題点には次のようなものがあります。
この点を十分理解していただいた上、ご愛用願います。

- ①床暖房対応無垢フローリングは床暖房使用中に水分を放出して収縮することにより1.5mm前後の隙間、干割れが生じることがあります。夏の休止時には吸湿して膨張し、ある程度目立たなくなります。
- ②フローリングは温湿度変化に伴う伸縮により小さな床鳴りが発生する場合があります。
- ③高湿度環境下では木材が大量に吸湿することによりフローリングは大きく膨張し、反りや突き上げ等の不具合が発生する場合があります。